

# FF式石油温風機 (密閉式石油ストーブ)

品番 **OK-D1 102 WP** **OK-D1 102** **ご販売店さま用**

この工事説明書は、工事業者が正しく安全な工事をすすめるのに必要な手引きです。設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据え付けてください。なお、この工事説明書は取扱説明書と一緒に必ず保存してください。(設置工事後、お客様にお渡しいたします)

## 安全上のご注意 (必ずお守りください)

●施工される人への危害・物的損害を未然に防止するためと、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、設置工事において必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った工事をしたとときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

- 警告** この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度」です。
  - 注意** この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」です。
- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
- この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
  - この絵表示は、必ず実行していただく「指示」内容です。

## 警告

- 据付けや移動は販売店へ依頼すること**  
お客様ご自身で据付工事され、不備があると感電や火災の原因になります。
- 外れ危険・点検必要**  
給排気管を確実に接続し、しっかりと固定してください。風、揺動、衝撃などで外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。
- 集合煙突利用の禁止**  
排ガスが室内に出たり、異常燃焼を起こしたり結露水が凍結したりして、事故のおそれがあります。
- 床下給排気禁止**  
必ず屋外に排気してください。排ガスが室内に漏れて、危険です。

- 火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る**  
製品、油タンク、給排気管の据付けは、規則を守らないと火災の原因になります。
- コンセントや配線器具の定格を超える使用はしない**  
たとえ配線などで定格を超える加工したり、排気管などの高温部に触れたり束ねたりしない。傷んだまま使用すると感電・ショート・火災の原因になります。
- ガソリン厳禁**  
ガソリン、混合油(農機用)など揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。灯油(JIS1号灯油)を使用してください。

## 注意

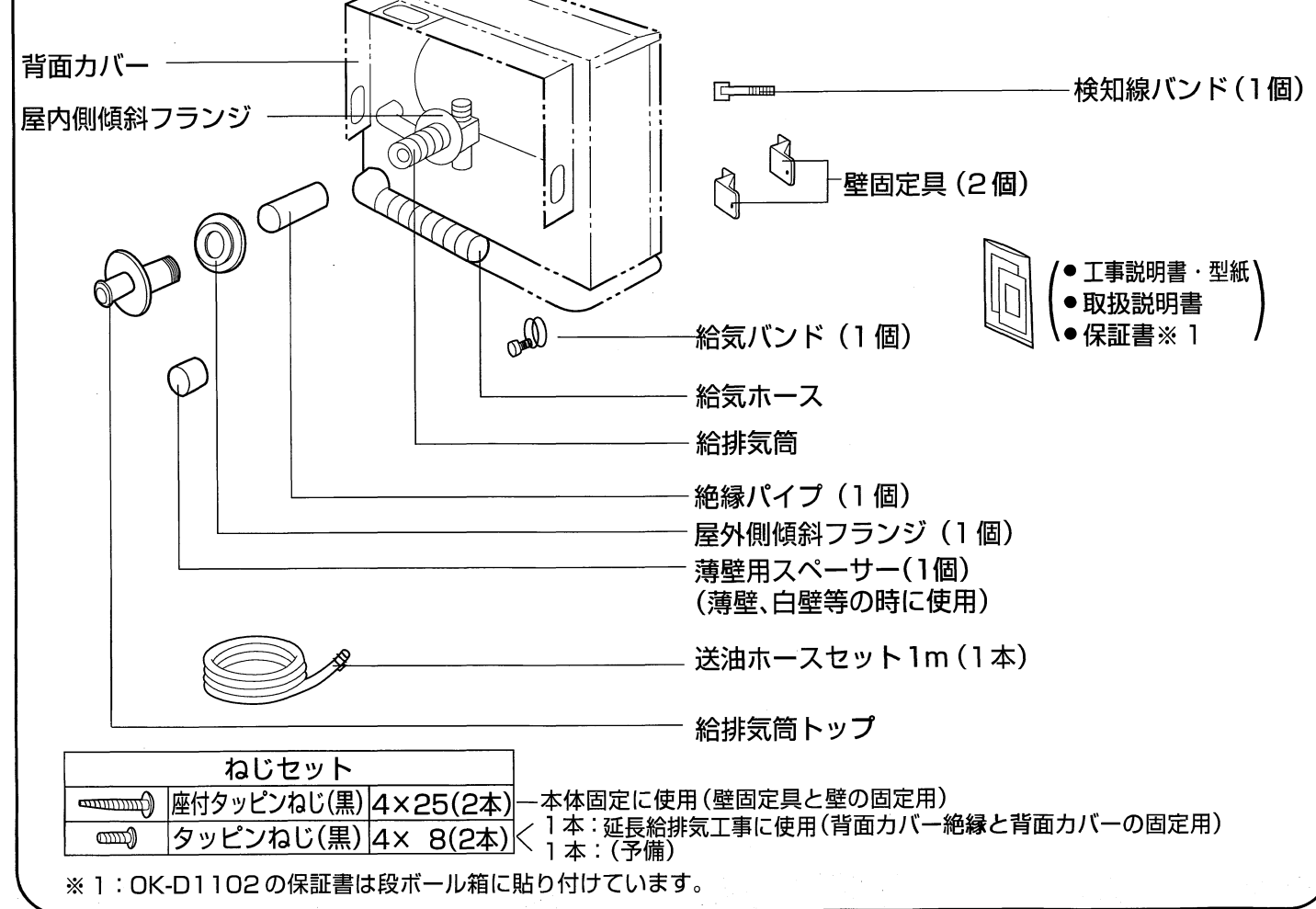
- 次の場所には据付けない**  
火災や予想しない事故の原因になります。
  - 水平でない場所、不安定な場所
  - 不安定な物を乗せた棚などの下
  - 可燃性ガスの発生する場所又はたまる場所
  - 付近に燃えやすいものがある場所
  - 階段避難口などの付近で避難の支障となる場所
  - 温室、飼育室など人のいない場所
- 油タンクとの距離を離す**  
●油タンクは機器より2m以上離して据付けるか、防火壁を設けてください。  
●屋内用据置式の油タンクは不燃材の床の上に据え付けること。  
●屋内タンクをご使用の場合、油タンクとストーブとの距離を2m以上取るため別売の送油ホース(OK-B07K 長さ2.5m)をご使用ください。
- 本体が壁に固定できない場所には据付けない**  
地震のとき転倒し、火災の原因になることがあります。
- 給・排気管の延長は長さ3m、曲がりは3カ所以内とする**  
異常燃焼や排気の結露による凍結・水漏れの原因になります。
- 手袋などの保護具を着用して工事をを行う**  
金属切断面などで怪我をすることがあります。

油漏れ、排気漏れ(臭気)、燃焼の異常などがなければ確かめてください。お客様と立ち会って運転してください。

- 工事終了後給排気管の点検を要する**  
取り付けが終わったら、もう一度点検してください。次のような取り付けは危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがありますので、必ず修正してください。
- 可燃物近接禁止**
- 接続部のゆるみ点検**
- 下り勾配のごと**
- 3m3曲がり以下のごと**
- 排気管は壁から2cm以上離れていること**
- 給排気管トップと開口部との距離は離す**
- 危険物近接禁止**

## 1. 開こん

段ボール箱からストーブを取り出し、給排気管トップをはずします。次にバックキン材、テープなどを取り除き、付属品を確認してください。



## 2. 据付け

- 据付け場所の選定**
  - 性能をそごなわないための空間が取れる場所
    - 耐火構造であっても、可燃物との距離が取れないような設置場所(マンホールピースや凹部)への据付けはしないでください。
  - 電源コンセントの位置
    - コンセント(交流100V 15A)を使用できる位置。(電源コードの長さは2mです)
    - 歩行者が電源コードを引っ掛けられないような位置。

### 据付け方法

- 置台の取付けと水平設置**
  - 付属の置台を据付面に置き、ストーブの置台の脚部に乗せてください。
  - 本体を水平で丈夫な床面に据付けてください。
- 本体の固定**
  - 本体を壁に壁固定具で固定しますが、取り付けは給排気管を取り付ける手順の中で行ってください。
- 風向板の調節**
  - ルーバー裏側の風向板により温風吹出し方向を調節できます。据付けの後、ラジオペンチなどを用いて希望の方向に風向板を曲げてください。(3回以上曲げないでください)
- 油タンクの据付けと送油ホースの接続**

- 油タンクの据付けについては、各地の火災予防条例に従ってください。
  - 油タンクを、40℃以上の場所、直射日光のあたる場所、雨水やほこりの入りやすい場所へ据付けることは避けてください。
  - 油タンクの近くに他の燃焼器具などを置かないでください。
  - 油タンクは不燃材の上に置き、簡単に動いたり倒れたりすることのないよう据付けてください。たたみやじゅうたんの上は避けてください。
  - 送油ホースは付属の送油ホース(長さ1m)またはJIS S 3022(石油燃焼器具用送油管)に適合した送油ホースを使用してください。屋内タンクをご使用の場合、油タンクとストーブとの距離を2m以上はなす必要があるため、別売の送油ホース(OK-B07K 長さ2.5m)をご使用ください。

■既設の油タンクを使用する場合、油タンクのフィルター掃除や水抜きを確認に行ってください。

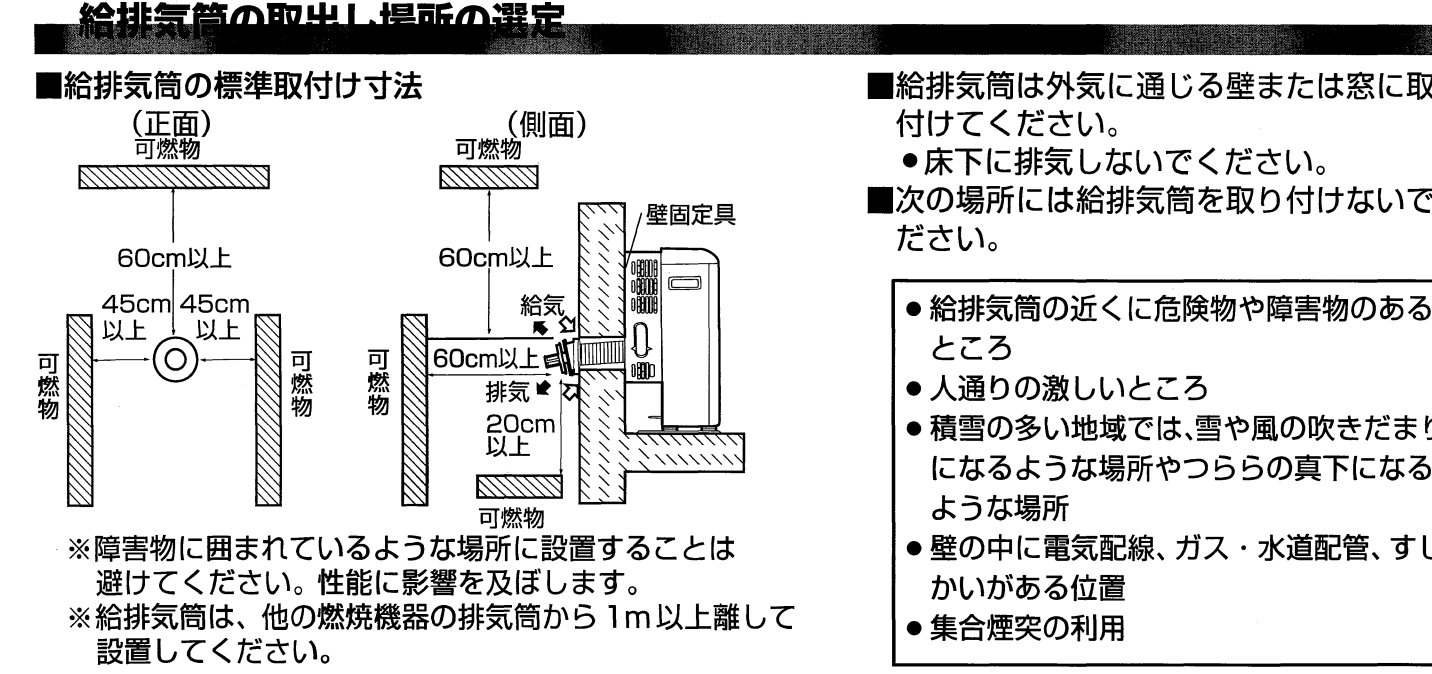
■送油配管にごみなどがあると、本体の定油面器のフィルターがつまり、送油量が減少することがあります。また、送油配管に水があると凍結し、送油が十分に行えない場合があります。新しい送油管にするか、送油配管内の掃除と水抜きを行ってから、配管してください。

- 油タンクの据付け**
  - 油タンクは本体と同一床面に相当する高さか、右図の寸法に従って据付けてください。
- 屋外タンクの場合**
  - 屋外側の送油配管については販売助成物の「据付工事部材マニュアル」に従って施工してください。
  - 銅管、銅管保護パイプがメタルラス張り、ワイヤラス張りの壁を貫通する場合、壁貫通部に絶縁テープ等を巻いて電氣的絶縁を施してください。
- 送油ホースの接続**
  - 送油ホースを油タンクの接続口(屋外タンクの場合は壁付コック等の接続口)に十分差し込み、ホースバンドで固定してください。送油ホースの先端に灯油をつけると挿入しやすくなります。
  - 油タンク側のバルブを少し開け、送油ホース先端まで灯油が確実に流れてくることを確認してください。送油ホース内に空気溜りがあると灯油が流れず点火不良の原因になります。空気抜きは油タンク側から、送油ホースを順次たぐっていくとできます。
  - 床に灯油をこぼさないように受皿等を用意し、慎重に行ってください。
  - 送油ホースを本体の接続口に十分差し込み、ホースバンドで固定してください。
  - 送油ホースを途中で山形になったり、もつれたりしないよう整えてください。
  - 本体の送油ホース接続口のフレアナットの増し締めをし、灯油に漏れがないか確認してください。
- 室温センサーの移動**

設置場所や周囲の状態によっては、室温センサーの温度と室温に差が生じたりして好ましくない場合があります。

  - 室温センサーを取りはずし、反対側に室温センサーを取り付けてください。
  - 排気管に室温センサーのリード線が接触しないように注意してください。

## 3. 給排気管(管、ホースなど)の取付け



- 給排気管は、必ず付属の「標準給排気管セット」および別売品「ナショナルFF式石油温風機各種延長工事部材」の新しいものを使用してください。長期間使用したものは劣化していたり、異物が詰まっている場合があります。
- リングの種類及び呼び用途別：運動用リング  
材料別：4種D  
呼び番号：P39  
■給排気管の型式の呼び：PL-09またはPL-11

## 標準給排気方式の場合

- 標準給排気方式(壁直結)は付属品の「標準給排気管セット」(標準対応壁厚135mm~260mm)を使用した取付け方式です。
- 標準給排気方式以外にも設置場所によって、別売部材で窓などを利用したり、排気管と給気ホースを延長したり、厚壁や薄壁に対応して取り付けることができます。
- 取り付けかたは別売部材に同こんの説明書にしたがってください。
- 給排気管の延長限度は3mで曲がりは3カ所以内です。
- 排気管外れ検知装置を正しく働かせるために
  - 給排気管の端子台に必ず排気管検知リード線を接続してください。
  - 排気管の接続部には、排気管固定金具を取り付け、確実に電流が流れるようにしてください。
  - 延長給排気工事の場合、同こんの背面カバー絶縁を必ず背面カバーのフックアウト穴の周囲に取り付け、排気管と背面カバーの電氣的絶縁をしてください。
 特に延長給排気工事の場合は、販売助成物の「据付工事部材マニュアル」に従って、接続部の確認を行ってください。

- 型紙(工事説明書の裏面)の貼付**
  - ストーブを据付ける位置の壁に接着テープなどで貼り付け、給排気管取付け穴位置を決め、印を付けてください。
- 穴あけ(標準対応壁厚135mm~260mm)**
  - 印を付けた位置に直径85mmまたは直径70mmの穴をあけてください。
  - ただし、直径70mmの穴をあける場合は、5度先下りの穴をあけてください。
  - 穴をあける時の振動により、外壁が大きくずれる場合がありますので、ドリルの先端が屋外に出たあとは、屋外より穴をあけてください。
- 給気ホースの接続(給排気管側)**
  - 本体背面に固定してある給排気管トップ固定金具と排気管保持金具を取りはずし、給排気管トップをはずしてください。
  - 給排気管を約90度回転させてから、排気管を回転させて、給排気管を穴の位置に合わせてください。
  - 給気ホースを給排気管の給気口に差し込み、給気バンドで固定してください。
  - 給気ホースは給排気管の給気口に差し込み、給気バンドで固定してください。
  - 給気ホースが排気管に触れないように注意してください。
  - 給気ホースが排気管に接触しないように注意してください。
- 排気管・給排気管の調節**
  - 排気管のスライドパイプを、壁穴の位置に合うように適当な長さで引っぱり出してください。このとき、スライドパイプの刻印(ヒード)が出ない程度の長さ(最大45mmまで)にしてください。
  - スライドパイプを抜く時は、排気管のスポット位置とスライドパイプの軸方向の刻印を合わせて抜いてください。
  - 給排気管の取付け面と本体後面の壁とが離れている場合(長押し、出窓などは、屋内側傾斜フランジを回転させ、壁面に合わせてください。設置した状態で排気管の本体側接続部に余分な力がかからないように注意してください。

## 5. 絶縁パイプのセット

- 絶縁パイプを壁の厚さに合わせ、ノコギリ等で壁の厚さより長くないように切断してください。
- 切断した絶縁パイプを給排気管にかぶせ、屋内側傾斜フランジに固定してください。
- ラズ張りの壁貫通時には、絶縁パイプを必ずセットしてください。

## 6. 本体の移動

- 絶縁パイプといっしょに、給排気管を壁貫通部穴へ差し込むように本体を壁面に寄せてください。
- 屋内側傾斜フランジの「屋内上」が上にくるように回してください。(逆に取り付けたと雨水が室内に入り込むことがあります)

## 7. 給排気管トップの固定(壁厚135mm~260mmの場合)

- 屋外側傾斜フランジを給排気管トップに挿入してください。
- 屋外側傾斜フランジには、シールパッキンが貼り付けてあります。
- 屋外側より絶縁パイプの中に給排気管トップのねじ部を挿入し、給排気管トップを右に回し、給排気管に締め込んでください。
- 屋外側傾斜フランジの「屋外上」を上にして、給排気管トップをしっかりと締め付けてください。
- 屋内側・屋外側傾斜フランジと壁面に隙間があると、排ガスが隙間から屋内に入り、臭いの原因になります。

## 8. 壁面固定具でストーブを壁に固定(本体の左右2カ所)

- 付属の壁面固定具を背面カバー横の長穴(両側)に引っかけてください。長穴は4個ありますが、1つ選んでください。
- 木または厚い合板の壁に固定する場合は、壁面固定具を用いてねじで直壁に固定してください。
- モルタル、コンクリートの壁に固定する場合は、コンクリート用プラグを壁に打ち込み、壁面固定具を用いてねじで固定してください。
- 石膏ボード、薄い合板など中空壁に固定する場合は、中空壁用プラグを壁に打ち込み、壁面固定具を用いてねじで固定してください。
- 土壁・土っぽい壁などのように壁面固定具が直接取り付けられない場合は、壁にそえ木をして壁面固定具を取り付けてください。

## 4. HAの配線(HAを使用する場合)

ツイステアール線HAで配線される場合は別売部材のFF用HA接続コード(OK-BHA4(金具付セット))とJEMAアダプター(HK-AJ110)を用意し、同こんの工事説明書に従って、工事を行ってください。

## 5. 試運転

- 電源プラグをコンセント(交流100V)に差し込んでください。
- 次の手順にしたがって、標高の設定と延長給排気の設定をしてください。
  - 電源スイッチを「切」にする。
  - 「時刻合せ」「切タイマー」ボタンを同時に7秒間押し。…「ピッ」とブザーが鳴る。デジタル表示部に   を表示。
  - 標高設定：○ボタンを押し、
 

表示：「0」……	500m未満
表示：「5」……	500~1000m未満
表示：「10」……	1000~1500m未満

 のいずれかの標高に設定する。(ボタンを押すことに表示が0→5→10→0…と変わります)
  - 延長設定：⊕ボタンを押し、
 

表示：「0」……	0~1.5m未満
表示：「1」……	1.5~2.5m未満
表示：「3」……	2.5~3m以下

 のいずれかの延長給排気長さに設定する。(ボタンを押すことに表示が0→1→3→0…と変わります)
  - 電源スイッチを「入」にする。
  - 以上の操作で調節完了です。

## 試運転

- 試運転はお客さまと立ち会って行ってください。
- 運転準備**
    - 油タンクに給油し、油タンクや送油管接続部から油漏れがないか確認する。
    - 定油面器セッティングを2~3回押し下げる。
    - コードホルダーを開き、電源コードをのばし、電源プラグをコンセントに差し込む。
    - 電源スイッチが「入」になっていることを確かめてください。●電源コードは使用時には束ねないでください。
  - 運転**
    - 運転スイッチを押す
    - 運転ランプ点灯。
    - 設定温度を室内温度より高くする。部屋の温度が設定温度より2℃高いと燃焼しませぬ。
      - 約5~6分後に燃焼を始めます。
      - 燃焼を始めてから約1分半後に温風がでます。
      - 温風吹出方向が適当であるかどうか確認してください。
      - はじめてお使いになるときは塗料の焼きつくにおいと温風吹出口より煙が出ることがありますが、熱交換器の塗装やパッキン類が焼けるためで、異常ではありません。数10分で消えますので、換気をしながら運転してください。しばらく使用するとなくなります。
    - 運転スイッチを再度押し
      - 運転ランプが消え、消火します。
      - 本体内部の温度を下げるために、約6分間送風します。

松下電器産業株式会社 石油・給湯事業部  
〒639-1188 奈良県大和郡市筒井町800番地 電話 大和郡山(0743)56-1121